

2020-2030



人と自然が共生し

確かな豊かさを実感するまち

## 第2次 北栄町まちづくりビジョン



令和2年9月  
鳥取県北栄町

## 目次

はじめに .....	3
<b>第1章 序論</b> .....	4
<b>1. まちづくりビジョンについて</b> .....	4
(1) まちづくりビジョンとは .....	4
(2) まちづくりビジョンの構成 .....	4
(3) 計画期間 .....	4
(4) 計画のフォローアップ、見直しについて .....	4
(5) まちづくりビジョンの位置付け（体系図） .....	5
<b>2. 策定プロセス</b> .....	5
(1) ほくえい未来トークについて .....	5
(2) 町民アンケートについて .....	6
(3) まちづくりビジョン検討委員会について .....	6
<b>3. SDGsについて</b> .....	6
<b>第2章 北栄町の現状と課題</b> .....	9
<b>1. 北栄町の現状と特徴的なこと</b> .....	9
(1) 北栄町の概要 .....	9
(2) 北栄町の人口 .....	10
(3) 北栄町の産業 .....	10
(4) 北栄町の特徴的な取り組みや地域資源 .....	11
<b>2. 北栄町の主な課題</b> .....	15
<b>第3章 北栄町の将来ビジョン（2030年の目指すべき将来像）</b> .....	16
(1) 地域資源の更なる活用による地域経済の好循環 .....	16
(2) 持続可能かつ快適・安全に暮らせ、地球環境に貢献するまち .....	16
(3) 地域の中で生涯を通してやりがい・いきがいをもちながら過ごせるまち .....	17
(4) 誰一人取り残さず、地域への理解を育む子育て・教育環境 .....	17
(5) 北栄町ならではの魅力の国内外へのより深い浸透 .....	17
<b>第4章 施策の体系図・部門別計画</b> .....	18



▶ 第1節 地域資源で稼ぎ賑わうまちづくり（産業・観光）	19
第1項 農林業の振興	20
第2項 商工業の振興	26
第3項 観光の振興	29
▶ 第2節 生涯学び未来を育てるまちづくり（教育・生涯学習・子育て・文化・スポーツ）	33
第1項 未来をつくる教育の推進	34
第2項 子育て支援の充実	39
第3項 文化・芸術の振興	42
第4項 スポーツの振興	44
▶ 第3節 誰一人取り残さないまちづくり（人権、福祉、健康、男女）	46
第1項 人権教育の推進	47
第2項 福祉の充実	48
第3項 健康づくりの推進	53
第4項 男女共同参画社会の推進	55
▶ 第4節 安全で持続可能なまちづくり（環境・インフラ・安全・生活）	57
第1項 環境にやさしいまちづくりの推進	58
第2項 インフラの整備	61
第3項 安全なまちづくりの推進	66
▶ 第5節 人と人とのつながりを育むまちづくり（コミュニティ・町政・交流・移住定住）	68
第1項 地域活動・まちづくりへの参画推進	69
第2項 交流の推進	72
第3項 移住定住の促進	74
▶ 第6節 健全な財政運営	76
第1項 健全な財政運営	77
第5章 資料編：町民の方々からいただいた意見や議論について	79

## はじめに

平成17年に北栄町が誕生し、新たなまちづくりの歴史が始まりました。

北栄町は北に日本海を臨み、黒ぼく土の肥沃な大地や白砂青松の景色が美しい北条砂丘が広がる自然豊かな町です。農業が盛んな地域であり、様々な魅力ある特産物が生み出されていること、町直営の風力発電施設に見られるように環境にやさしいまちづくりを進めていること、漫画「名探偵コナン」の原作者である青山剛昌氏の出身地であることを活かした「名探偵コナンに会えるまち」づくりを進めていることなどをはじめとして、様々な魅力にあふれたまちです。

北栄町に住む人は令和2年8月1日現在（住民基本台帳）で14,788人となっており、長期的に減少傾向にあり、2030年には12,491人、2040年には10,769人になるとの試算（国立社会保障・人口問題研究所推計）もあります。長期的な人口減少と少子高齢化は我が国全体が抱える課題でもあり、それに伴って生じる様々な問題が指摘されています。北栄町においても、産業の担い手の減少、地域コミュニティの維持、空き家の増加・商店の減少、子どもの減少と若者の地域外流出、交通手段の確保など様々な課題が加速化していくことが懸念されています。将来にわたって北栄町を持続可能な形で残し、次世代に引き継いでいくためには、これらの課題を乗り越え、目指すべき将来像を行政だけでなく町民、事業者をはじめとした関係者の間で共有し、一体となって取り組みを進めていく必要があります。

一方、世界に目を向けると、2015年9月の国連サミットにおいて「SDGs」（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）という国際目標が決まりました。これは、貧困、戦争、大きな経済格差、ジェンダー<sup>1</sup>格差、不衛生な環境、地球温暖化、生態系の破壊など、世界中で解決すべき課題に対して17のゴールを設定し、それを達成することで世界全体を持続可能な形で発展させていこうとする目標のことです。今般のまちづくりビジョンの策定に当たっては、SDGsの考え方を積極的に取り入れた上で、2030年に北栄町が目指すべき姿を示すこととしています。



北栄町の景色 海岸沿いに立ち並ぶ風車

<sup>1</sup> ジェンダー：身体の特徴など生来の性別の違いではなく、社会的、文化的につくられた性差のこと

## 第1章 序論

### ▶ 1. まちづくりビジョンについて

#### (1) まちづくりビジョンとは

平成17年10月に北栄町が誕生し、新たな町政運営がはじまりました。平成19年には町の最高規範として「北栄町自治基本条例」を制定し、町民、議会、行政が協働してまちづくりを進め、行政は積極的に情報共有を行い、町民、事業者、コミュニティなどあらゆる町の関係主体がまちづくりに参画していくこととしました。この自治基本条例においては、「町の将来の目指すべき姿」を町民と共有するため、行政は広く町民等の参画を得ながら「まちづくりビジョン」を策定することとしています。

このまちづくりビジョンは、すべての主体が共有する町の将来像であり、すべての主体がこのビジョンの実現に向けて歩んでいくことが望ましく、またそのように思えるものである必要があります。同時にまちづくりビジョンは町政運営の指針となる町の総合的な計画であり、10年程度の中長期にわたって北栄町が歩むべき道筋を明らかにするものです。このため、あらゆる町の政策はこのまちづくりビジョンに基づいて企画されていくものとなり、条例の制定、予算の編成、その他制度の検討などすべての施策はこのビジョンを踏まえながら実行されていきます。2011年度にまちづくりビジョンをはじめて策定しましたが、これは2011～2020年度を対象とした計画であったことから、近年の社会情勢の変化、町勢の変化も踏まえつつ、新たなまちづくりビジョンを策定することとしました。

#### (2) まちづくりビジョンの構成

まちづくりビジョンは大きく分けて4つの内容から構成されます。本章においては、そもそもまちづくりビジョンとは何か、どのようなプロセスで策定したかを説明しています。第2章においては、北栄町がどんな町なのか、どのようなところが魅力で、何が課題なのかを記載しています。第3章においては、「町の将来の目指すべき姿」を、第4章においては、「町の将来の目指すべき姿」を実現するために必要な具体的施策を示しています。

#### (3) 計画期間

まちづくりビジョンは「将来の目指すべき姿」を示すものであり、中長期的な町政運営の指針となるものであるため、一定程度の計画期間が必要です。このため、計画期間は2020年度（2020年9月）から2030年度までの10年と7か月とします。

#### (4) 計画のフォローアップ、見直しについて

まちづくりビジョンに示された「将来の目指すべき姿」が実現に向かっているかどうか、定期的に進捗を確認し、必要に応じて政策の見直しを行っていく必要があります。このため、まちづくりビジョンの実現のために必要な目標、施策の進捗状況に関する指標をなるべく定量的に設定するとともに、1年に一度はその

進捗を点検することとします。定量的なデータに基づき、イメージだけでなく実際にまちが抱える課題がどのような状況にあるのか、前提を共有しながら議論を行っていきます。また、まちづくりビジョンの内容については、社会情勢の変化、町勢の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行うこととします。

## (5) まちづくりビジョンの位置付け (体系図)

### 北栄町自治基本条例 (協働のまちづくりの基本的なルールを定めた条例)



町の将来像を町民等と共有するため「まちづくりビジョン」を策定 (条例第 21 条)

### 北栄町まちづくりビジョン (10 年程度の町の歩むべき道筋)



基本的方向性を示す

### 個別計画 (様々な分野ごとに具体的な施策や事業を定めた計画)

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| ・まち・ひと・しごと創生総合戦略  | ・子ども・子育て支援事業計画    |
| ・地域防災計画           | ・文化財保存活用地域計画      |
| ・農業振興基本計画         | ・介護保険事業計画         |
| ・中小企業・小規模企業振興基本計画 | ・高齢者福祉計画          |
| ・環境基本計画           | ・人権を尊重するまちづくり推進計画 |
| ・教育振興計画           | ・男女共同参画基本計画       |
|                   | 等                 |

## 2. 策定プロセス

### (1) ほくえい未来トークについて

まちづくりビジョンの策定について、自治基本条例においては「町民等の意見が反映できるよう広く町民等の参画を得て策定しなければならない」とされています。まちづくりビジョンは町の将来像を示すものであることから、行政だけでなく町民と一体となって策定を進めることが必要となります。このため、2019 年 9～10 月、「ほくえい未来トーク」と題したワークショップを開催し、幅広い層の町民のみなさまと町の将来像等に関して一緒に議論しました。ワークショップにおいては、各 5 名程度のグループに分かれ、「北栄町の好きなところ」、「10 年後の理想の北栄町」、「現在の町における心配事や困りごと」、「理想と現実のギャップを埋めるための対策」を議論し、この結果を新たなまちづくりビジョンの土台としていくこととしました。

町民のみなさまに参加していただくに当たっては、住民基本台帳から 1,500 人を無作為に抽出し参加をお願いするという方式を行いました。また、鳥取中央育英高校の生徒や、まちづくりビジョン検討委員 (後述) にもご参加いただきました。これにより、非常に幅広い年代、バックグラウンドを持った方々にお越しいただき、様々なご意見をいただくことができました。「ほくえい未来トーク」の内容については別途記載します。

## (2) 町民アンケートについて

まちづくりビジョンの策定にあたり、幅広く意見を聞くことを目的に、住民基本台帳から1,000人を無作為に抽出しアンケートを送付しました。今後の展開に役立てるため、北栄町の施策に対する町民の満足度・重要度や期待する北栄町の将来像等を調査しました。また、町内中学校に通学している中学2年生全員を対象にアンケートを実施しています。

## (3) まちづくりビジョン検討委員会について

まちづくりビジョンの策定に当たっては、行政のみならず、産業、観光、教育、文化、環境、福祉、健康など様々な分野について深い知見のある方に意見をいただいたり、それぞれの観点から必要な取り組みを指摘いただいたりすることが必要です。このことにより、実効性があり、効果のある計画の策定を行うことが可能となります。このため、「北栄町まちづくりビジョン検討委員会」を設置し、定期的を開催することで、合計20名の委員にまちづくりビジョンの検討過程において様々な意見をいただき、計画に反映しました。

# ▶ 3. SDGsについて

## (1) SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）という、2016年から2030年までの国際的な目標が、2015年9月の国連サミットで採択されました。このSDGsは、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国・途上国の区別なく取り組む普遍的なものであり、我が国においても積極的に取り組んでいるものです。17のゴールは、具体的には以下の表のような内容となっていますが、これらは個々に独立しているわけではなく、統合され不可分のものであるとされています。つまり、持続可能な社会を作っていくためには、ある一つのゴールの達成のみを追求するのではなく、環境・経済・社会面の課題から構成されるすべてのゴールを統合的に達成する必要があるということです。

SDGsの達成に向けては、「あちらを立てればこちらが立たず」というように、一つのゴールの達成に向けた取り組みが他のゴールの達成を阻害する（トレードオフ<sup>2</sup>の関係にある）ような場合、そのトレードオフを可能な限り小さくしていくことに加え、あるゴールの達成のための取り組みが他のゴールの達成にも大きな効果をもたらすように、すなわちシナジー効果（相乗効果）を最大化するように取り組んでいくことが重要となります。

また、SDGsは、2030年のあるべき姿を17の目標に分けて示したものです。つまり、SDGsの達成に貢献するためには、具体的に将来のあるべき姿から逆算し、「何ができるか」だけではなく「何をすべきか」を考え、実行する「バックキャスト<sup>3</sup>」の思考が求められています。したがって、従来の取り組みの延長線上にある施策ではなく、今までの発想にとらわれない、経済・社会システムの変革を目指す取り

<sup>2</sup> トレードオフ：何かを達成するために別の何かを犠牲にしなければならない関係のこと

<sup>3</sup> バックキャスト：未来のある時点で目標を設定しておき、そこから振り返って現在すべきことを考える方法

組みが必要になります。

「持続可能」とは、「将来世代にとって必要なことを損なわず、現役世代にとっての必要なことを満たすこと」とされています。「はじめに」で示したような北栄町の課題を踏まえつつ、今私たちは本当に「誰一人取り残さない」社会を作れているか、将来も北栄町に暮らす人々が豊かな暮らしを享受するための取り組みができているか、改めて振り返り、上記の観点を踏まえながら、今後のまちづくりに活かしていく必要があります。SDGsに取り組むということは、我々の抱えている問題そのものの解決につながることであるため、北栄町においては、新たなまちづくりビジョンの策定に当たっては、SDGsの考え方を積極的に取り入れ、後述する将来ビジョン、まちづくりの基本目標、具体的な施策などに反映させていきます。

### 【持続可能な世界を実現するための17のゴール】

ゴール1	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
ゴール2	飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
ゴール3	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
ゴール4	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
ゴール5	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
ゴール6	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
ゴール7	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
ゴール8	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働き甲斐のある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
ゴール9	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
ゴール10	各国内及び各国間の不平等を是正する
ゴール11	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する
ゴール12	持続可能な生産消費形態を確保する
ゴール13	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
ゴール14	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
ゴール15	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
ゴール16	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
ゴール17	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標




ロゴ：国連広報センター作成

## (2) SDGsの表示について

SDGsの17の目標には、それぞれ細かいターゲットが設定されており、全部で169のターゲットがあります。

後述する「部門別計画」の「施策の目標（KPI）、関連するSDGs」には、ゴールのロゴと数字が入っています。ゴールの数字の後に英数字が入っているものは、ターゲットを記載しているものです。

### 【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
地域活動助成の実施件数	8件/年	100件/11年	17.17 

ゴール17・・・ 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

ターゲット17.17・・・ 様々なパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

## 第2章 北栄町の現状と課題

### 1. 北栄町の現状と特徴的なこと

#### (1) 北栄町の概要

北栄町は、平成17年10月1日に旧北条町と旧大栄町が合併してきた町で、鳥取県の中央部に位置しています。全町域の約7割は、田畑と山林が占めており、自然豊かな町です。町の中央部には二級河川の由良川、本町の東側境界には一級河川の天神川がそれぞれ南北に伸び、日本海に流れています。また、町内には由良川のほか、9つの二級河川が流れています。南部は倉吉市と接し山地丘陵や中国山地に続く高地となっており、大山の火山灰が降り積もってできた黒ぼく土の肥沃な大地が広がっています。一方で全体として標高は低く、最高位は314mとなだらかな傾斜の地形となっています。また、東部は湯梨浜町、西部は琴浦町、南部は倉吉市にそれぞれ接しています。北部は日本海に面し、東西約12.5kmに及ぶ砂丘海岸となっており、その背後には約15km<sup>2</sup>にも及ぶ北条砂丘が広がっています。東西約12.5km、南北約9.5km、面積57km<sup>2</sup>と県内で3番目に小さな自治体でありながら、このように様々な自然環境から構成されています。気候は日本海側気候であり、春と秋は好天の日が多く、夏は南風によるフェーン現象<sup>4</sup>で猛暑日となることもあります。平野部でも熱帯夜は少なくなっています。冬は曇りや雨、雪の日が多いですが、1月平均気温は4℃台と東京郊外、名古屋、京都と同じくらいであり冷え込みは厳しくありません。



北栄町の概要図

<sup>4</sup> フェーン現象：山から乾燥した高温の風が吹きおろる現象

町の全地域の土地使用状況については、耕地 21.8 km<sup>2</sup>（田 8.8 km<sup>2</sup>、畑地 13.0 km<sup>2</sup>）、林野地 14.4 km<sup>2</sup> となっています。耕地の占める割合が 38%と高いのが特徴で、耕地率は県内で1 番目となっています。また、可住地面積（総面積から林野地域と湖沼地域を除いたもの）の割合についても県内で4 番目です。町の交通体系は、J R 山陰本線の停車駅が2 駅あるほか、県の東部と西部をつなぐ国道9 号、さらに国道313 号により岡山県とつながっていることに加え、山陰自動車道及び地域高規格道路の建設も進んでいることから、鳥取県における交通上の要衝の地ともなっています。また、道路舗装率は95.8%と県内3 位、下水道普及率は96.6%と県内1 位であることや、畑地灌漑用水施設が充実しているなど、インフラ<sup>5</sup>整備が進んだ地域でもあります。一方、県内一位の人口を持つ鳥取市を有する県東部エリア、米子市、境港市を有し松江市とも隣接する県西部エリアから等しく離れており、鳥取県の中でも人口の少ない県中部エリアの中央に位置しています。

## (2) 北栄町の人口

北栄町の人口は令和2 年8 月1 日現在（住民基本台帳）で14,788 人（男7,128 人 女7,660 人）となっており、1995 年の17,228 人（国勢調査）をピークとして年々減少しています。年齢別人口では、65 歳以下の人口は減少しているのに対し、65 歳以上の人口は増加している状況です。また、世帯数については令和2 年8 月1 日現在（住民基本台帳）で5,401 世帯となっており、近年は横ばい傾向が続いています。将来の人口について、2030 年には総人口が12,491 人、2040 年には10,769 人となると推計（国立社会保障・人口問題研究所推計）されています。総人口について、年少人口（0 歳～14 歳）、生産年齢人口（15 歳～64 歳）、老年人口（65 歳以上）の3 区分を見ると、年少人口と生産年齢人口は、総人口の傾向と同じように減少を続けますが、老年人口は、2025 年に5,000 人を超え、それをピークとして微減していくと推計されています。また、年齢3 区分の割合は、老年人口の増加により、2040 年には、総人口に占める65 歳以上人口の割合が、約4 割になります。

## (3) 北栄町の産業

北栄町の産業別就業人口は、平成27 年時点で第一次産業1,795 人、第二次産業1,664 人、第三次産業4,545 人です。第一次産業就業者比率が県内で4 番目に高く、その大部分は農業を生業としています。農業は本町の主要産業となっていて、農業産出額は平成29 年では約88 億4 千万円、内訳をみると野菜が5 割以上を占め、ついで果実、米、花きの順となっています。地域別では、南部の黒ぼく土の丘陵地帯では大栄西瓜、秋冬野菜、花きの生産が、北条砂丘地帯ではらっきょう、ぶどう、ねばりっこ（県の園芸試験場で開発された新品種の長芋）、白ねぎ等の生産が行われており、土地の特性を活かした多様な農産物が生産されています。特産品の一つである大栄西瓜は、ここ数年単価の上昇が続いており、2019 年度の総生産額は20 億円を突破するとともに、同年にはGI<sup>6</sup>（地理的表示）登録がなされました。また、ねばりっこについても総生産額の上昇が続いており、生産者戸数も増えています。らっきょうについては鳥取県が全国一位の出荷量を誇りますが、県内2 番目の一大生産地となっています。他にも砂丘地の寒暖差の激しい気候を活かしたぶどうが

<sup>5</sup> インフラ：産業や社会生活の基盤となる施設

<sup>6</sup> GI（ジーアイ）：地域独自の農林水産物などを農林水産省が認定し登録する



江戸時代頃から栽培されており、中四国地方最古のワイナリーも存在するなど、極めて多種多様な特産品が存在する県下でも有数の農業地帯です。高齢化等により生産者戸数の総数は減っているものの、製品によっては「稼ぐ農業」に魅力を感じた新規就農者が増えつつある状況です。



大栄西瓜



北条砂丘のぶどう畑

商工業について、本町の事業所数（人口千人当たり）は39.4で県内19市町村中12位、従業者数（人口千人当たり）は272.6で県内12位とどちらも中位よりやや下に位置しています。また、製造品出荷額（従業員一人当たり）は9位となっています。商店数（人口千人当たり）は9.38で県内11位と中位程度ですが、商業年間販売額（従業者一人当たり）は37,534千円で3位と上位に位置しています。高い技術力を誇る製造事業者や、名探偵コナンに会えるまちを訪れる観光客をターゲットとした飲食物販店舗等、様々な魅力を持つ企業が存在するものの、事業所の総数としては近接する倉吉市や琴浦町といったエリアには及びません。とりわけドラッグストア・大型スーパーマーケット等の大型日用品店は他市町に比べあまり存在せず、飲食店の総数も周辺市町に比べると少ないため、「日用品等を買物できる場所がない」、「飲食できるお店が少ない」との声が町民から多く聞かれます。また、宿泊施設等が少なく観光客の滞在時間も短い傾向にあります。

#### (4) 北栄町の特徴的な取り組みや地域資源

##### ①北条砂丘風力発電所をはじめとした地域エネルギー

北栄町は地球温暖化対策及び地域エネルギーの活用の観点から、町直営の風力発電施設である「北条砂丘風力発電所」を管理運営しており、その規模は1,500kW×9基、合計13.5MWと自治体が運営するものとしては全国最大級を誇ります。平成25年度から固定価格買取制度（FIT）を活用し年間4.6億円程度の売電収入を得ており、売電収入の一部を活用した「風のまちづくり事業」において、町内の公共施設への省エネ設備導入、街路灯などのLED化といった公共部門の省エネ化にとどまらず、町民や事業者が行う再エネ設備導入や省エネリフォーム等への補助事業も行っており、FITで得た収入を再エネ・省エネ設備等に再投資するという好循環を形成しています。また、太陽光発電についても公共施設等への設置を進める他、地域の事業者と連携したメガソーラー発電所の設置を行い、バイオマスについてもバイオマス産業都市構想が2018年に関係府省から認定されるなど、様々な地域エネルギーの活用を進めています。これらの政策を一層進め、地球温暖化対策に貢献するべく、2019年12月には「気候非常事態宣言」及び



「ゼロカーボン宣言」を表明し、2050年までのCO<sub>2</sub>実質排出ゼロを目指すこととしました。



北条砂丘風力発電所



農業用施設と太陽光発電が立ち並ぶ

## ②名探偵コナンに会えるまち

日本を代表する漫画「名探偵コナン」の作者である青山剛昌氏が本町の出身であることから、北栄町は「名探偵コナンに会えるまち」づくりを推進してきました。JR由良駅（愛称：コナン駅）から青山剛昌ふるさと館までの1.4kmのコナン通りを中心とした周辺にはキャラクターのブロンズ像やカラーオブジェ、石製モニュメントなどを配置し修景整備を進めてきました。まちづくりの中心施設である青山剛昌ふるさと館は、町が運営し、名探偵コナン関連のショップから構成される「コナンの家 米花商店街」を商工会が運営を行っており、町、観光協会、商工会、地域の住民団体が一体となって町づくりを進めています。また、青山剛昌ふるさと館をはじめコナン通りでは、掲示物の多言語表示（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施しています。青山剛昌ふるさと館は、2018年夏に累計来場者数100万人を達成し、2019年度には年間来場者数が20万人を突破するなど、県内でも有数の観光エリアとなっています。名探偵コナンに会えるまちづくりは観光面だけでなく、移住者向けのガイドブックや児童用の学習教材等で使用されるなど、町民にとって身近な取り組みの中で活用される他、滋賀県湖南市との友好協定締結、米国の人気司会者であるコナン・オブライエン氏の来町のきっかけとなる等、外部との交流という分野においても大きな可能性を持っています。



青山剛昌ふるさと館 2007年3月オープン



米国人気司会者 コナン・オブライエンさん（コナン駅前）

### ③国史跡である由良台場などの歴史・文化、自然環境とその恵み

北栄町には、国史跡である由良台場跡<sup>7</sup>、六尾反射炉跡<sup>8</sup>などの幕末を象徴する近代化遺産や、国の重要文化財2体を有する東高尾観音寺をはじめとして様々な歴史・文化遺産が存在します。また、近代洋画界に足跡を残す前田寛治<sup>9</sup>、鳥取民藝に欠かせない役割を果たした陶芸の生田和孝<sup>10</sup>、北條土人形の加藤廉兵衛<sup>11</sup>などを輩出した風土があり、長年にわたり町単独で美術展を開催したり、50年の長きにわたり北栄文芸を発行したりしています。近年は「文化の薫るまち 北栄町」として北栄文化回廊<sup>12</sup>を毎年実施するなど芸術・文化活動も活発です。お台場でつながる東京都港区との交流を深めており、地域の歴史・文化資源を活用することで次世代に引き継ぎ、保存していく取り組みも始まっています。

さらに、地理的特徴の項目でも述べたとおり、山林、田畑、砂丘地、河川、海など様々な自然環境が入り混じった地域であり、自然環境豊かでありつつ、平野部が多いことから居住性の高い区域です。この豊かな自然環境は産業構造の項目でも述べたとおり、歴史も豊かな北条砂丘とくろぼく土を中心に地域資源の一つである農産物を生み出す土台となっています。



国史跡由良台場跡 1864（文久4）年築造



「花」

洋画家 前田 寛治 氏

### ④こども園から小中高まで、教育環境の充実したまち

北栄町の教育機関として、小中学校が北条地区・大栄地区にそれぞれ1校ずつ、町が運営するこども園が4園、民間のこども園等が2園存在しています。また、鳥取中央育英高校、中央高等学園専修学校の2校が存在しており、小規模自治体でありながら町内に充実した教育環境が整っているといえます。鳥取中央育英高校とは2014年に「地域探究の時間」推進に関する協約を結び、地域をフィールドとした課題発見型の教育を推進しています。

さらに、子どもの居場所づくりとして、地域のボランティアが関わるこども北栄塾やほくほくプラザ事業、スポーツジュニアクラブなども積極的に進めており、特に不登校になった子どもたちの学校復帰支援

7 国史跡由良台場跡：1864（文久4）年、鳥取藩で最初に築造された砲台場。日本で唯一当時の原型をほぼ完全に保っている

8 六尾反射炉跡：1857（安政4）年に建設。反射炉とは金属を溶かし大砲などを铸造するための溶解炉

9 前田寛治（まえたかんじ）：洋画家。1896（明治29）年、北栄町国坂で生まれた。近代洋画界に大きな足跡を残した

10 生田和孝（いくたかずたか）：陶芸家。1927（昭和2）年、旧北条町で生まれた。鳥取を代表する陶芸家たちを育てた

11 加藤廉兵衛（かとうれんべい）：北條土人形の作家。1995（大正4）年、旧北条町で生まれた

12 北栄文化回廊：町内で一斉に芸術と文化に関する企画や展示を実施し、周遊して楽しむことができるイベント

や居場所づくりとして、民間の教育機関によるフリースクールが開設されています。町と民間教育機関との連携により生活困窮世帯やひとり親世帯の小中学生の学習支援も実施しており、子どもたちを誰一人取り残さないよう教育機会の確保を図っています。

また、絵本の持つ創造力や情操を育み、親子をつなぐ力を生かす「今こそ絵本を！」事業を進めたり、住民の主体的な学習支援のために、地域に講師を派遣する生涯学習出前講座を提供したりするなど、生涯を通じた学習機会の確保を図っています。



地元特産品が登場するサプライズ給食



鳥取中央育英高校 高校生議会で町に提案

#### ⑤県下で最も低い要介護認定率、健康・福祉のまち

北栄町では、病気のあるなしにかかわらず誰もがそれぞれの生きがいを持ち、自分らしく安心して楽しく暮らすことができる生活を目指して、「運動習慣の定着」、「健全な食生活の定着」、「心の健康づくり」、「健康診査の充実」、「生活習慣病の予防」を進めています。特徴的な取り組みとして、一般財団法人北栄スポーツクラブと連携した運動教室の企画、食生活改善推進員の活動推進、相談できるゲートキーパー<sup>13</sup>の養成、国民健康保険被保険者以外の住民への人間ドック受診助成対象の拡大、ヘルスアップ教室などでの糖尿病性腎症重症化予防事業の実施などを行っています。また、北栄町の高齢化率は33%を超え、3人に1人は65歳以上となり、年々高齢化が進んでいる状況です。それにも関わらず、要介護認定率は、ここ数年15%以下で推移しており、県下で最も低い認定率となっているのは、体力づくりや健康づくり、介護予防の取り組みによる成果だと考えられます。

高齢化等によって生じた地域の生活環境の課題に対応するため、2020年3月に「北栄町地域福祉推進計画」を策定しました。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域共生社会<sup>14</sup>を推進しています。

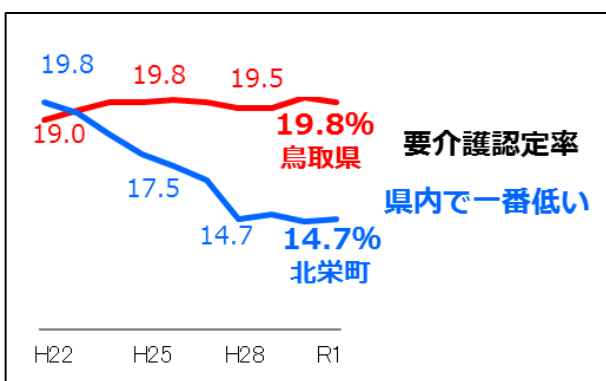
<sup>13</sup> ゲートキーパー：悩んでいる人のサインに気づき、専門家につないで自殺を防ぐ住民ボランティア

<sup>14</sup> 地域共生社会：地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会





認知症捜索訓練



要介護認定率

## 2. 北栄町の主な課題

「ほくえい未来トーク」において「北栄町の課題」を議論する中で、多くの方々から、産業・コミュニティにおける担い手不足に伴って生じる様々な問題点を懸念する声がありました。同様に、若者世代の地域外流出、交通に関する将来への不安、商店・飲食店の少なさ、医療機関などへのアクセスの不便さに関する意見や、子育てに関する環境の充実化、観光地としての魅力向上に関する意見も多くみられました（なお、そのほかの意見も含め、詳細は第5章にまとめています）。

上述の人口動態のとおり、他の多くの自治体同様、北栄町においても人口減少・少子高齢化が今後も進行することが予測されます。この問題は、産業、地域コミュニティ、文化等における担い手の不足、それに伴う活力の低下、まちの空洞化、特に高齢者にとっての交通手段の不足、子育て・教育環境の老朽化など、経済・社会の様々な側面に大きな影響を与えかねないものです。町の財政状況についても、過去に整備した公共施設・インフラの更新費用や、医療・介護・福祉にかかる費用については今後も増加していくことが見込まれるため、一人当たりの負担額は増加していきます。

しかしながら、日本全体の人口が減少傾向に向かう中、北栄町だけが人口を増やすことは現実的ではありません。そのため、移住・定住施策により可能な限り北栄町の人口を維持していくことは必要ですが、それだけでなく、人口減少時代に対応した持続可能なまちづくりを進めていくことが重要となります。最も重要な点は、人口が減る中においても、暮らしている人々の暮らしの質を下げず、やりがい・いきがいを持って安全かつ快適に過ごし続けられる環境を維持し続けることであると考えられます。

一方、様々な人が働き続けることのできるまちであるためにも、地域内の産業基盤を維持していくことが必要です。特に、地域資源などを活用した北栄町ならではの産業を持続させていく必要があります。都市圏に比べて地域内の産業基盤が小規模になりがちな本町においては、多くの商品・サービスの供給を外部に依存しています。その結果として地域内の「お金」の多くが、商品・サービスの購入を通じて地域外に流出することとなっています。この流れを完全に食い止めることは現実的ではありませんが、地域の中で供給することが可能な商品・サービスについては可能な限り地域内で購入していくことで、資金の流れを地域の中に留め、地域経済を少しでも活性化していくことが可能になります。もちろん、地域で作った商品・サービスを他地域に売っていわゆる「外貨を稼ぐ」ことも同様に重要となります。



## 第3章 北栄町の将来ビジョン（2030年の目指すべき将来像）

北栄町が目指すべき将来像（将来こうなっていたらよい、という状態）について、過去のまちづくりビジョンで示した「人と自然が共生し 確かな豊かさを実感するまち」を引き続き掲げつつ、これまでの内容や第5章に示している議論を踏まえ、その具体的な内容を以下のように示します。ここで示した将来像は、行政だけで実現することは難しく、町民、地域コミュニティ、企業、その他関係者が一体となって共有し、実現に向けて取り組んでいくべきものです。

### （1）地域資源の更なる活用による地域経済の好循環

北栄町に暮らす、もしくは北栄町で働くすべての人々が、自らやりがいをもって働くことのできる環境にあります。農業については、農業法人や新規就農者の参入、農業の承継等により就農者数が一定程度維持され、また耕作放棄地も減少するとともに、引き続き多様で魅力ある農産物が産出され、地域の稼ぎにつながっています。商工業についても、人口減少に伴う労働力不足が補われているとともに、その地域・事業者ならではの魅力ある商品、技術を活かした製品、独自のサービス等が提供されており、地域に根差した事業活動が活性化しています。それぞれの担い手が誇りをもって仕事に従事しており、このため町内でのサービス・商品の購入量が増えており、町内消費が増えた結果として地域経済の活性化が生まれ、地域で働く人のやりがいにもつながっています。とりわけ食料・住環境・地域エネルギーの分野においては生活を豊かにするのみならず、気候変動対策にも資する、プラスチックごみの削減にも貢献するなど地球環境に優しい選択肢が示されており、それらが主に地域内から供給されています。

### （2）持続可能かつ快適・安全に暮らせ、地球環境に貢献するまち

将来の人口減少がある程度避けられない中でも、今後の財政、インフラ・公共サービスに関する問題点が解消され、町民の不安が取り除かれており、このことを実現するための長期計画が様々な主体との意見交換によってでき上がっています。暮らしの質を下げず、人口の減少に伴って公共サービスの総量は適正化されており、長期的な視野に立っても北栄町が住みよいまちになっています。これに加え、自然エネルギーの活用や断熱性能に優れた住宅制度の普及により、地球環境にとっても「持続可能」であるまちが実現しつつあり、気候非常事態宣言において示した「2050年までのCO<sub>2</sub>実質排出ゼロ」の実現についても順調に取り組みが進められています。

生活に必要な商店、飲食店、教育施設、医療・介護施設、公共施設等に誰もが容易にアクセスできる仕組みが確保されています。徒歩、公共交通、自転車など自家用車以外の選択肢を取ったとしても不自由なく暮らせ、様々な目的地を訪れることができるようになりつつあり、地域に賑わいが生まれています。土地利用についても、住宅地、企業用地、農地・山間地などの明確化がある程度なされ、誘導的な施策の効果が出つつあり、まちの空洞化の解消に向かって一定のめどが立っています。大前提として、生活を維持するのに必要な道路、インフラ、公衆衛生は人々が暮らす場所にきちんと整備されており、その質も維持あるいは向上しています。また、近年増加、激甚化する大雨や台風への対応、鳥取県中部地震を踏まえた地震への備えなど、防災を意識したインフラの整備が進んでおり、安全で安心な暮らしが守られています。

### (3) 地域の中で生涯を通してやりがい・いきがいをもちながら過ごせるまち

自治会や文化活動など様々な地域のコミュニティが充実しており、地域の中でそれぞれの人が活躍でき、互いに助け合い、支えあっている状態であり、結果として地域における見守り体制や災害に対する地域ごとの備えが整っています。すべての人が自らの権利を余すことなく行使できており、そのためのあらゆる障害が排除され、社会福祉の充実も図られていることで、すべての人が生き活きと過ごすことができます。生涯を通して仕事だけでなく社会貢献、文化活動等の様々な活動に取り組むことができ、そのために必要な心身の健康の増進にも積極的に町民が取り組んでいるとともに、そのためのサポート体制・情報提供体制、高齢者福祉の環境がしっかりと整っています。自らの住む地域、町に誇りを持っており、自分たちの住む地域や町は自らで創り出すとの考えの下、町政の方針についても積極的な議論が各所でなされ、行政への住民参加も多く、その機会も行政から広く提供されています。

### (4) 誰一人取り残さず、地域への理解を育む子育て・教育環境

それぞれの子どもが生まれ育った環境に関わらず、「誰一人取り残さない」充実した教育環境の提供がなされています。更に、子どもや若者が豊かな自然環境、歴史・文化に囲まれつつ、十分な学習とトレーニングの機会を得られ、地域や社会のことを学ぶ機会、文化・スポーツなどに親しむ機会を持つことができます。これらに加えて子育てのためのサポートが充実しており、子育て世代が安心して子育てを町で行うことができます。また、子どもたちが地域とのつながりを持てる機会も増え、結果として町に魅力を感じ、将来の居住の選択肢のひとつとして北栄町が入るような環境となっています。

### (5) 北栄町ならではの魅力の国内外へのより深い浸透

豊かな自然環境やそこから生み出される農産物、名探偵コナンに会えるまちづくりを含めた観光、歴史・文化資産、風力発電施設をシンボルとした環境への取り組み、それらを担う人々など、北栄町の様々な魅力が発展・強化され、町民が暮らしの中で実感できているとともに、自らの町に誇りを持てるきっかけとなっています。町にとっては当たり前に見えるものでも、農業、観光、環境、教育に見られるように世間一般においてもトップランナーとして他の地域、あるいは他の国々の課題解決の模範になっているようなものも多くみられています。観光客、だけでなく、定期的に訪れたり、北栄町における活動に主体的に参加したりするなど、多様な形で北栄町のファン、北栄町に関わる人々が増えています。また、個人レベルにとどまらず、国内外の企業や自治体など外部との交流が様々な形で生まれています。町の多様な魅力が外部に伝わっていくことで、結果として町民だけではなく多様な人が町に関わっており、その中から移住・定住する人も増えている状態となっており、北栄町人口ビジョンの達成にもつながりつつあります。